

日交研シリーズ A-800

平成 31 年度自主研究プロジェクト

「移動の意味に関する総合的研究」

刊行：2021 年 3 月

移動の意味に関する総合的研究
Comprehensive Study on the Meanings of Moving

主査：金 利昭（茨城大学大学院理工学研究科）

Toshiaki KIN

要 旨

本研究では、近年出現した自動運転車を含めて移動の文化的・意味的な側面を考察するとともに、これまでの日交研プロジェクトで蓄積された移動の意味に関する知見を総合的に整理して体系化するための理論を検討した。

第一に、交通ルール・マナーの制度設計に関して具体的な場面で検討した。歩道やシェアードスペースにおいて自転車が歩行者を追い越す場面の動画実験装置を用いた協力二人ゲーミングシミュレーション実験を実行した結果、現行の社会規則として暗黙裡に推奨されている「追い越さない」は、追い越される歩行者と追い越す自転車の双方にとって顕著に低い評価となり、常態化している「何もしない」の評価も低くなったことから、歩行者と自転車間で何らかのコミュニケーションの必要性は高く、その手段として「鈴」や「声掛け」「ベル」の状況に応じた適切な使い分けが必要であると考察した。

第二に、「理想都市・生活者像に関する調査」の読み解きから本質的潜在ニーズを探った結果、自動運転車が普及すること自体に抵抗を感じている人は少なく、若者は利便性、高齢者は安全性に期待している。自動運転車で通勤し、自動運転車内で仕事の確認をしたり酒を飲んだり自分の時間として有効活用するという期待があるが、一方で都市内を徒歩だけで生活したい、緑や水辺がある道や自然公園で散歩したいというニーズもあることがわかった。

第三に、これまで断続的に研究してきた移動の心理的・社会的・文化的側面を関連付けることを目的として、移動の個人的側面である「意味的利点」「体験の影響」「思い出・理想」等と、社会的側面である「交通手段の優先順位」「交通規則・マナー」「理想社会」等を、人・組織・社会・世界を総合的に捉える枠組みとして近年登場したインテグラル理論の四象限（心理的事象、行動的事象、文化的事象、社会システムの事象）に位置づけ、得られた移動と交通の枠組みを、新しい生活様式さらには新しい社会を検討するための思考装置として提示した。

キーワード： 移動の意味

理想の移動

インテグラル理論

Keywords: meanings of moving

Ideal Moving

Integral theory